

## 部門別営業概況および事業展望

## 売上高

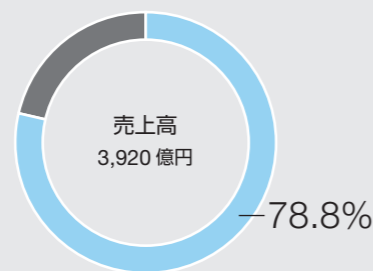
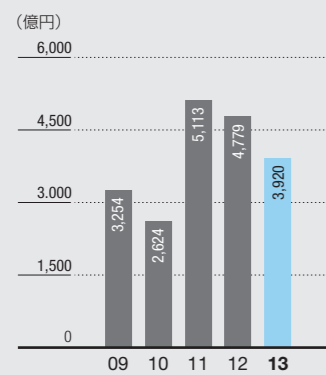
## 売上高構成比

## 事業環境

## 営業概況

## 事業展望

## 半導体製造装置



2013年3月期の世界半導体設備投資は、世界景気低迷の影響を受け、前年に引き続き調整局面が続きました。パソコン出荷の鈍化に起因するDRAMの需給バランス悪化に加え、NANDフラッシュメモリも期待されたほどには需要が伸びず、メモリ顧客における生産能力増強投資が控えられました。一方、モバイル機器、サーバー等に使用されるロジック系半導体に対する需要は強く、ロジック向け投資は堅調でした。

- 部門売上高：前年比18.0%減少の3,920億円
- メモリ投資低迷の影響で、国内向け51%の減少、韓国向け47%の減少
- 堅調なロジック投資を背景に、台湾向け40%の増加、米国向け2%の増加
- コータ/デベロッパの製品シェア、過去最高の89%を達成
- 注力するエッチング装置、洗浄装置分野で、顧客の新規量産ラインにおける認定を複数獲得
- 成膜分野において、ALD成膜装置、メタル成膜装置の新製品を市場投入

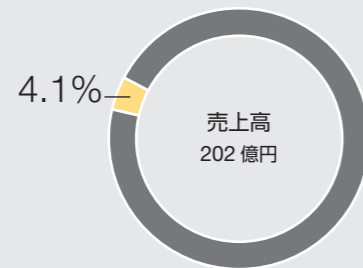
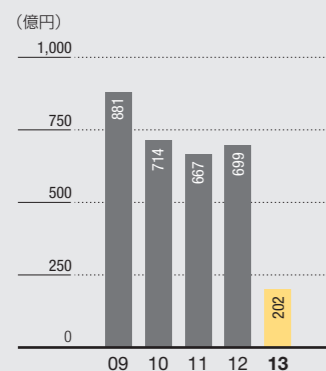
\*地域別売上構成についてはP4をご参照ください。

スマートフォン、タブレットをはじめとするモバイル機器の本格的な普及と、その膨大なデータ通信を可能にするクラウド・コンピューティングの発展により、今後も半導体の需要は拡大し続けると同時に、求められる技術革新はますます高度になり多様化していきます。

こうした半導体の量的拡大と高度な技術革新を実現していくために、半導体製造装置の果たす役割はますます重要となり、半導体設備投資を牽引してまいります。

当社は、こうした新技術への移行を事業拡大につなげるべく、積極的に新製品を投入してまいります。既に高い製品シェアを持つコータ/デベロッパについては、生産性の向上やEUV露光に対応した製品を投入し、成膜装置については、セミバッチ式のALD成膜装置やメタル成膜装置の新製品で収益拡大を狙います。注力分野として位置付けているエッチング装置と洗浄装置については、低ダメージと高選択性を特徴とするエッチング装置、先端ロジック向け枚葉洗浄装置、ドライ洗浄装置でシェア拡大を目指します。ウェーハプローバでは、顧客の生産コスト低減に寄与する新製品の投入で参入市場拡大を図ります。また、高い成長が見込まれるパッケージング分野においては、昨年企業買収した現TEL NEXX社の電解めっき装置をはじめ、充実した製品ラインアップにより売上拡大を目指します。

## FPD/PV製造装置



2013年3月期のフラットパネルディスプレイ (FPD) 設備投資は、先進国における薄型テレビの需要鈍化により大型パネル向け投資が先送りされ、モバイル機器に使用される高精細・中小型パネル向けの投資に限定されたため、前年比約70%の大幅な減少となりました。

太陽光パネル需要は世界全体で急拡大しています。設備投資については、2008年以降の過剰投資で生まれた競争力の低い生産ラインが淘汰される局面を迎えており、2012年を底に今後は増加に向かうのではないかと見られています。

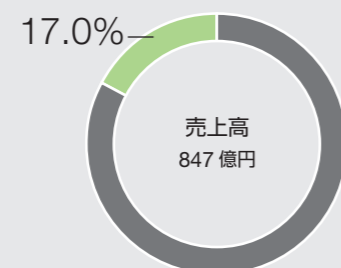
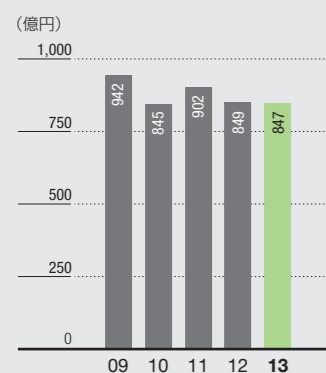
- 部門売上高：前年比71.2%減少の202億円 (FPD製造装置の売上がほぼ100%)
- FPD製造装置の世代別売上では、G6以下の中小型パネル向けが全体の約85%
- パネルの高精細化に対応するG8向け新型ICPエッチング装置を市場投入
- 中国昆山工場でFPDプラズマエッチング装置の補修および装置製造を開始

\*地域別売上構成についてはP4をご参照ください。

スマートフォン、タブレットなどのモバイル機器向けの中小型ディスプレイ市場は堅調に推移し、中国では大型パネル向け設備投資も再開されます。TFT基板には、従来のアモルファスシリコンに代わって、低温ポリシリコン (LTPS) や酸化物半導体 (IGZO) の採用が進んでいます。さらにポスト液晶として、より高画質で低消費電力の有機ELディスプレイが、既にモバイル向けに実用化されており、いよいよテレビ向けの大型有機ELディスプレイ製造への取り組みが加速してきました。当社はこうした技術革新が進行する中、新しいTFT技術に対応した競争力のある製品の投入、および有機EL成膜装置の新規市場参入により事業成長を目指します。また中国昆山工場での製造を本格化し、顧客対応力向上とコスト低減に取り組みます。

中長期的な観点で新たな事業の柱にするべく取り組んでいる太陽光パネル製造装置事業については、企業買収した現TEL Solar社の高い薄膜シリコン太陽光パネル製造技術をベースに、低コスト発電の鍵となる高変換効率の達成に向け、開発を強化してまいります。

## 電子部品・情報通信機器



2013年3月期の国内電子部品市場は、民生用電子機器、産業機器ともに低迷しました。また、IT投資においては、データセンターなどのクラウド・コンピューティング市場は拡大基調にありましたが、民間設備投資は厳しい状況が続きました。

- 部門売上高：前年比0.2%減少の847億円
- 半導体および電子デバイス事業の売上は、国内需要が民生用電子機器・産業機器ともに低水準で推移したことにより国内売上が約10%減少したが、中国をはじめ、アジア地域での売上が伸長したために、全体としては前年比0.7%減少
- コンピュータシステム関連事業の売上は、製品販売および保守ビジネスが堅調に推移したことにより、前年比2.2%増加

\*地域別売上構成についてはP4をご参照ください。

半導体および電子デバイス事業においては、今後もアジア地域の市場成長が持続することが見込まれます。また、コンピュータシステム関連事業においては、クラウド・コンピューティングの普及を背景にデータセンターへの投資が継続すると予想されます。

こうした市場動向を視野に、当事業部門では既存ビジネスや商権獲得による販路拡大に留まらず、海外現地企業への展開、自社ブランド製品inrevium™(インレビウム)の海外拡販などにより事業成長を目指してまいります。また、クラウド・コンピューティング、データセンター向けに直接販売体制を強化することに加え、高付加価値の新製品の投入や最適なソリューションの提供に邁進してまいります。